

第6章 まちづくりの実現化方策

第6章 まちづくりの実現化方策

1. 基本的な考え方

都市計画マスタープランは、長期的視点に立った、将来的な土地利用、都市施設整備の基本的方針であり、市民の生活環境の改善と向上の方策を計画的に進めるためのものである。

地域の実情や社会的、経済的状况等を勘案し、実現化のためのさまざまな手法を活用しつつ、市民の積極的な参画による行政・市民一体となったまちづくりを行うことが重要である。まちづくりの基本理念として掲げている「みんなで創る歴史とともにくらすあずましの里くろいし」をふまえ、市民、行政、民間事業者が協働してまちづくりを進めていく。

2. 「みんなで創る」まちづくりの推進

(1) まちづくりの場づくり

まちづくりの意識を高め、市民参加を進めるために、まちづくりに関するパンフレットやホームページ、市報などさまざまな情報提供を積極的に進め、NPOやボランティアなどの市民活動がしやすい環境の整備に努める。

まちづくりへの参加についても、公園や広場づくり、緑化活動、景観形成や環境形成、道づくりなど、身近で親しみやすい生活空間づくりを協働で行っていく意識を醸成していく。

また、まちづくりに関連したフォーラム、セミナー、ワークショップ、イベント等の開催を通じて、子供からお年寄りまでが楽しめるまちづくりを実践していく。

(2) まちづくり活動の支援

まちづくりに貢献する活動に対して、さまざまな支援制度を検討・活用して、まちづくりの気運を高める。

また、まちづくりの相談的機能の充実を図り、自主的なまちづくり活動を支援するための制度のあり方を検討する。緑地協定や建築協定、地区計画など、市民主導のまちづくり活動を推進するための情報提供やアドバイス、専門家の派遣などにも取り組んでいくものとする。

(3) まちづくりの担い手となる人材の育成

「みんなで創る」まちづくりを積極的に進めていくためには、「まち育て人※」など、地域のリーダーとなって、まちづくりを推進する市民の存在が大きな力となる。これらの人材の発掘と必要な情報や場の提供を行い、まちづくりにおける人づくりへの支援を検討する。

また、こみせや蔵などの先人から受け継いだ貴重な地域資源を守り利用していく地域のまちづくりの担い手を支援する方法について検討する。

※青森県が、県民が将来にわたり本当に住み続けたいと思うようなまちを官民協働により目指すため、将来の地域のまちづくりを担う人材育成を目的として、「あおもりまち育て人講座」を開催し、認定した人。

(4) 学校教育、地域や家庭との連携

学校教育の場において、子供たちのまちづくりに関する学習の機会を充実し、まちづくりに関する意識の高揚を図っていく。また、体験を通じたまちづくりの機会を住民との協力により確立し、子供たちを通じたまちづくりが、PTAや地域住民との連携の下に大きく育つような仕組みづくりを図ると共に、地域や家庭における教育の取組みを推進する。

3. 適正な都市計画の運用によるまちづくりの推進

用途地域などの地域地区制度、都市施設の整備事業などを適切に運用することにより、本都市計画マスタープランに示した目標・方針が実現されるように努める。

住民の発意や意向に基づいたきめ細かいまちづくりや、地域の実情に応じたまちづくりを進めるため、必要に応じて地区内のまちづくりルールを定める地区計画制度や建築協定・緑化協定等の導入を検討する。また、農地の保全と集落地域の住環境の向上を図るために、必要な施策を推進する。

4. より良いまちづくりに向けた行動計画

都市計画マスタープランは、まちづくりに対する市民の要望や様々な課題に対応して、土地利用の規制・誘導や必要な都市機能の充実を図っていくことを通じて、よりよいまちづくりの実現につなげようとするものである。

都市計画マスタープランに示された事業や施策について、必要性や緊急性、市民の要望、本市の都市整備に関わる予算規模などを考慮して、予定される実施時期を「短期」（概ね5年以内）、「中期」（5～10年以内）、「長期」（10～20年以内）に区分し、段階的なまちづくりの推進を図る。

区分	目標	事業・施策	短期	中期	長期
土地利用	まち	都市的土地利用の適正なコントロールのための用途地域の見直し	→		
	自然	農業施策と連携した農用地の保全	→	→	→
	まち	地区計画等の活用による良好な低層住宅地の環境保全		→	→
	産業	大規模建物跡地の有効活用方策の検討	→		
環境・景観	自然	里山づくり、環境学習の充実		→	
	歴史	地域の魅力を高める景観づくり(景観計画の策定、景観行政団体への移行)	→		
	歴史	こみせを活かしたまちづくり	→	→	→
	歴史	蔵を活かしたまちづくり		→	→
	歴史	旧佐藤家住宅(旧松の湯)の保存・再生	→		

区分	目標	事業・施策	短期	中期	長期
緑・水辺	自然	新たな公園の整備			
	歴史	まちなかのにぎわい広場づくり(かぐじ広場のような市街地内の憩いの場)			
道路網	まち	長期未着手の都市計画道路の見直し			
	まち	計画に基づいた都市計画道路の整備推進			
	まち	冬でも利用しやすい道づくりの推進			
	まち	バリアフリーに配慮した道路の整備			
交通体系	まち	パーク&ライド、サイクル&ライドの取り組み			
	まち	バス利便性向上(待ち合い施設、駐輪場、バス運行情報提供装置)			
	まち	公共交通の利便性向上			
	まち	黒石駅前駐輪場の整備			
	人	小学校通学路などの歩行環境の整備			
公共公益施設	産業	市内に点在する観光資源の有効活用方策の検討			
	まち	黒石市流域関連公共下水道事業の推進			
	自然	合併処理浄化槽整備事業の推進			
にぎわいあるまちづくり	まち	中心市街地の活性化			
	人	空店舗対策事業イベントの開催			
	産業	観光拠点のネットワーク化			
住宅・住環境	人	まちなか居住の促進			
	人	計画的な公共住宅の整備			
	まち	市街地における良好な住環境の誘導			

区分	目標	事業・施策	短期	中期	長期
防災まちづくり	まち	耐震改修促進計画に基づく公共施設等の調査・改修等の実施	→		
	まち	ライフライン施設の耐震化	→		
	まち	ハザードマップの作成	→		

※「目標」欄は、各事業・施策が、第3章まちづくりの目標において示した5項目の目標のどれに当てはまるかを示している。

歴史：「歴史」を活かしたくらし

自然：「自然」と共生するくらし

まち：「まち」で安心・快適なくらし

人：「人」と人との繋がりでやすらぐくらし

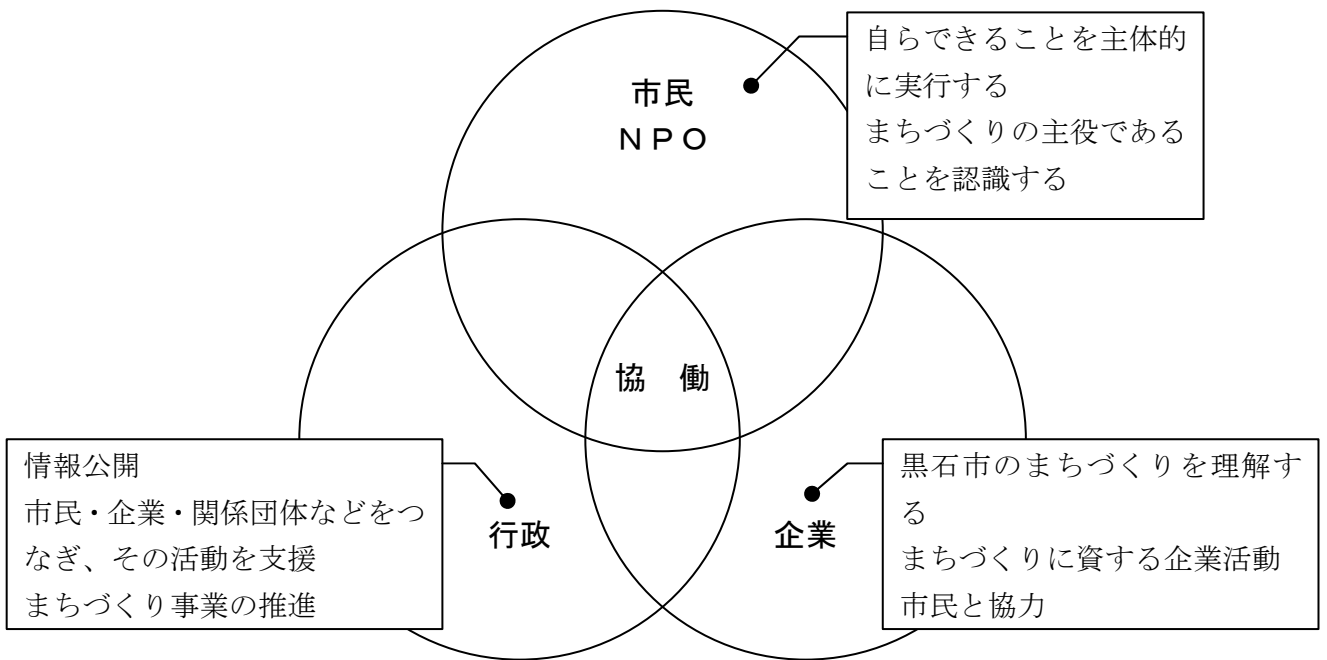
産業：「産業」で安定生活を過ごすくらし

上記諸施策の中で、市民の要望や緊急性、重要性の高い施策を「優先施策」として設定し、実現に向けた市民、企業、行政それぞれの具体的な行動計画を以下に示す。

優先施策	行動計画		
	市民・NPO	企業	行政
都市的土地利用の適正なコントロールのための用途地域の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 用途地域制度の意義を理解する 建物を建て替える際に、指定された用途地域にあった土地利用を行う 見直し案作成への協力・提言 	<ul style="list-style-type: none"> 用途地域制度の意義を理解する 企業活動を行う際に、指定された用途地域にあった土地利用を行う 見直し案作成への協力・提言 	<ul style="list-style-type: none"> 見直し案などの情報公開、合意形成への取り組み 農地や自然、居住環境を保全するとともに、商業や工業などの産業活動を妨げない用途地域指定のあり方の検討
長期末着手の都市計画道路の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路整備への理解・協力 見直し案作成への協力・提言 	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路整備への理解・協力 見直し案作成への協力・提言 	<ul style="list-style-type: none"> 見直し案などの情報公開、合意形成への取り組み 都市活動に必要な道路の整備のあり方についての検討
中心市街地の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の利用 街なかへの居住 	<ul style="list-style-type: none"> 街なかでの企業活動 黒石でなければできない商品の企画・販売 来訪者を中心市街地に呼び込む工夫（中心市街地におけるイベント等の実施） 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地活性化基本計画の策定検討 商店街、住民との連携 中心市街地におけるイベント等の検討

優先施策	行動計画		
	市民・NPO	企業	行政
地域の魅力を高める景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段何気なく見過ごしている、黒石らしい景観を再評価する ・ 自宅や勤務先の景観づくり（軒先に花を飾る、建物の外観に配慮する、など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発事業などにおける景観への配慮 ・ 景観に配慮した看板・案内板等の掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観計画の策定 ・ 景観行政団体への移行 ・ 良好な景観形成のための、街並みや看板などに関するルールづくりの検討
耐震改修促進計画に基づく公共施設等の調査・改修等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査への理解・協力 ・ 必要な改修等への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査への理解・協力 ・ 必要な改修等への協力および実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震改修が必要な建物の調査 ・ 公共施設についての耐震改修の実施

【協働によるまちづくりの役割分担（イメージ）】



5. まちづくりの推進体制

都市計画マスタープランに示された内容は、都市計画分野だけにとどまるのではなく、農業、住宅、福祉、防災、産業、観光振興、環境保全など広範な分野にまたがるものである。また、骨格的な道路や拠点整備などにおいては、国・県や周辺市町村との連携が必要である。都市計画マスタープラン実現に向けて、庁内体制の充実を図るとともに、国や県、周辺市町村との連携・調整を行いながら、都市づくりを展開していく。

(1) 庁内体制の充実

行政内部において総合的なまちづくりを推進するため、建設部門や都市開発部門のみならず、福祉部門、環境部門など広く関連する部門が連携して各種施策に取り組む体制をつくる。

(2) 周辺市町村との連携

本市は、青森県の中央に位置し、中南地域第二の都市であるとともに、青森市と弘前市の間に位置する、要衝にある都市であるといえる。このような地勢を活かしつつ、県や周辺市町村との連携・調整を図りながらまちづくりを展開していく。

(3) 国、県、関係機関などとの調整

総合的かつ円滑的にまちづくりを推進するため、県が定める都市計画区域マスタープラン等との整合を図るとともに、国、県、関係機関などとの連携を強化し、役割分担、計画調整、財政的支援などについての理解と協力を働きかけていく。

6. 都市計画マスタープランの進行管理

まちづくりは、長い時間をかけて、長期的な見通しに立って取り組むことが必要である。都市計画マスタープランは概ね20年後を見通した計画として作成されるが、計画に掲げたまちづくり施策の進捗状況を管理・評価しながら時代の変化に対応する必要がある。

地域のさまざまな動向、社会情勢に柔軟に対応し、市民参加のもと、定期的にまちづくりを評価検討し、柔軟に内容の見直しや修正を行っていくものとする。行政、住民が協働で都市計画マスタープランの進行管理を行うことを検討する。

具体的には、現在すでに組織化されている「黒石市都市計画審議会」において行政評価の一環として都市計画マスタープランを取り上げ、都市計画マスタープランで検討された方針が、各種の施策や事業に反映され、実現しているかを点検し、必要に応じて計画の軌道修正を行うこととする。

資料編

資料編

1. 住民アンケート調査票

よりよいまちづくりのためのアンケート調査 ～黒石市都市計画マスタープランの作成～

ご協力をお願い

黒石市建設部都市建築課

黒石市では、魅力ある住みよいまちを目指し将来あるべき姿を実現させる為「黒石市都市計画マスタープラン」の策定を行っています。

本計画は、市民の皆様がより良い市民生活をおくる為に、土地の利用方法や道路・公園・下水道といった都市施設をどのように作っていくかを示すまちづくりの指針であり、とても重要な計画です。

市では、まちの将来像について、皆さんと一緒に考えながら計画を作成したいと考えています。そこで、市内の無作為抽出した約2,000人を対象にアンケート調査を行うこととしました。

これからのまちづくりの第一歩として、この調査にご協力くださいますようお願い致します。

【お知らせ】

- 調査にあたりましては、お名前を記入していただく必要はありません。
- 回答していただいた内容は統計的に処理いたしますので、皆さんにご迷惑をおかけすることはありません。

【記入上の注意】

1. この調査票は、なるべく宛名のご本人がご記入ください。なお、ご本人の方がお答えできない場合は、同居の方がご記入ください。
2. お答えは、当てはまる回答の番号を○で囲んでください。
「その他（ ）」とお答えの場合は、（ ）の中に具体的にご記入ください。
3. この調査票は、**平成20年7月22日**までにご記入の上、同封の封筒に入れて投函してください。なお、切手は必要ございません。
4. ご回答の返信先は、この調査の集計・分析等の業務を委託している調査機関としましたのでご了承ください。
5. アンケート内容について、ご不明な点やご質問がございましたら、下記のところまでお問い合わせください。

アンケート 問い合わせ先	青森県 黒石市 建設部 都市建築課 電 話：0172-52-2111（内線229）
-----------------	--

調査機関	株式会社 協和コンサルタンツ東北支社 計画部 電 話：022-266-4952
------	--



1. はじめに、あなたご自身とご家族についておたずねします。

(1) あなたのお住まいの地区はどこですか。旧町名でお答え下さい。

(以下、「地区」とはこの分類を示します。)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 西部地区 | 6. 東地区 |
| 2. 北地区 | 7. 中部地区 |
| 3. 六郷地区 | 8. 牡丹平地区 |
| 4. 山形地区 | 9. 追子野木地区 |
| 5. 浅瀬石地区 | 10. 上十川地区 |

(2) あなたの性別は。

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

(3) あなたの年齢は。

- | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 | 4. 50歳代 | 5. 60歳代 | 6. 70歳代以上 |
|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|

(4) あなたのご職業は。(兼業の場合は、主な職業の方をお答えください)

- | | |
|------------------|---------|
| 1. 自営業(家族従業者を含む) | 6. 学生 |
| 2. 会社員(店員・工員等含む) | 7. 専業主婦 |
| 3. 農林水産業 | 8. 無職 |
| 4. パート・アルバイト | 9. その他 |
| 5. 公務員 | (具体的に) |

(5) 黒石市での在住期間は通算で何年ぐらいですか。

- | | | |
|------------|------------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1年～4年 | 3. 5年～9年 |
| 4. 10年～19年 | 5. 20年～29年 | 6. 30年以上 |

(6) あなたが現在お住まいの世帯構成は次のどれにあてはまりますか。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. ひとり住まい | 5. 三世代 |
| 2. 夫婦のみ | 6. 男親又は女親と子ども |
| 3. 二世代(夫婦と子ども) | 7. 兄弟姉妹 |
| 4. 二世代(親と夫婦) | 8. その他(具体的に :) |

II. 住みごちについておうかがいします。

問1 あなたにとって黒石市は住みよいですか、それとも住みにくいところですか。
1つだけ選んでください。

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. 住みよい | 2. まあ住みよい | 3. どちらとも言えない |
| 4. あまり住みよくない | 5. 住みにくい | 6. わからない |

問2 あなたが今お住まいの地区に、今後も住み続けたいと思いますか。
1つだけ選んでください。

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 1. ずっと住み続けたい | 2. 当分住み続けたい | 3. どちらとも言えない |
| 4. 転居したいが予定はない | 5. 近いうちに転居する | 6. わからない |

Ⅲ. あなたの家族の生活行動について

問3 あなたのご家族の日常的生活行動について、①行動する先の地域名、②その交通手段を下枠の選択肢から番号を選び、記入して下さい。

主な日常の生活行動の項目	①行動する地域 (番号を記入)	②交通手段 (番号を記入)
1) 現在、あなたの家族はどこに通勤・通学していますか。 職場が複数ある場合は、主な職場の地域とその交通手段をご記入下さい。		
2) 食料品、日用雑貨品は、主にどこで購入しますか。		
3) 外食は、主にどこに出かけますか。		
4) 家電製品や家具や贈答品は、主にどこで購入しますか。		
5) 映画・パチンコ等の娯楽は、主にどこへ出かけますか。		
6) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動は、主にどこでしますか。		
7) 普段、病院や福祉サービスを受けるのは、主にどこに行かれますか。		

選択肢① 「行動する主な地域」

1. 黒石市内			
	2. 青森市	3. 弘前市	4. 平川市
青森県内	5. 藤崎町	6. 五所川原市	7. 田舎館村
	8. その他県内市町村		
他県	9. 秋田県	10. 岩手県	11. その他

選択肢② 「交通手段」

A. 徒歩	B. 自転車	C. 原動機付自転車・バイク	D. 自家用車
E. タクシー	F. バス	G. 鉄道	H. その他



IV. あなたがお住まいの地区の暮らしやすさについて

問4 あなたの地域の暮らしやすさやサービスについてどれくらい満足していますか。
次のそれぞれの項目について1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項 目	満 足	どちらとも いえない	不 満
記入例：△△△△について	①	2	3
1) 山・川等の自然環境の豊かさ	1	2	3
2) 昔ながらの景観・まちなみ	1	2	3
3) まちのにぎわい	1	2	3
4) 道路交通の安全性	1	2	3
5) ごみ収集・処理状況	1	2	3
6) 下水や雨水の排水	1	2	3
7) 除雪対策	1	2	3
8) 自然災害に対する安全性	1	2	3
9) 街の防犯・風紀の充実度	1	2	3
10) 公民館等交流の場の充実度	1	2	3
11) 文化・スポーツ施設の充実度	1	2	3
12) 公園・子供のあそび場の充実度	1	2	3
13) 日常の交通の利便性	1	2	3
14) 日常の買い物のしやすさ	1	2	3
15) 医療・福祉施設の利便性	1	2	3
16) 余暇を楽しめる催しや機会、施設	1	2	3
17) 祭りや地域の行事	1	2	3
18) 近所どうしの交流	1	2	3
19) こどもを育てる環境	1	2	3
20) 高齢者が暮らしやすい生活環境	1	2	3
21) 障害者が暮らしやすい生活環境	1	2	3



V. あなたがお住まいの地区の将来像についておうかがいします。

問5 あなたが考える黒石市を代表又は自慢できる景色や文化は？（複数可、番号に○）

【祭り・催し】	1. 黒石桜まつり 2. 黒石よされ祭り 3. 黒石ねぶた 4. 納涼夜店まつり 5. 丑湯まつり 6. クラシックカー in こみせ 7. 大川原火流し	8. 旧正マッコ市 9. 黒石こみせまつり（秋・冬） 10. ダム湖まつり 11. ふるさと元気まつり 12. 4万市民4万個の雪だるま 13. 全日本ずぐり回し選手権大会	
【文化財】	14. 重要伝統的建造物群保存地区（こみせ） 15. 高橋家住宅 16. 鳴海家住宅 17. 金平成園（澤成園） 18. 津軽三不動（長谷沢神社、中野神社） 19. 九戸家住宅 20. 黒石神社	21. 感随寺（サルスベリ） 22. 薬師寺（石割カエデ） 23. 妙経寺（カヤの木） 24. 中野神社（モミ、大杉、モミジ） 25. 村上家のイチイ 26. 市消防団第三分団第三消防屯所	
【自然風景等】	27. 中野もみじ山 28. 虹の湖 29. カタクリの小径 30. 青荷温泉 31. 櫛ヶ峰	32. 浅瀬石川ダム 33. 観光リンゴ園からの眺望 34. 東公園の桜	
【文化・観光施設等】	35. スポカルイン黒石 36. 津軽こけし館 37. 津軽伝承工芸館 38. 秋田雨雀記念館 39. 中世陶芸の里烏城焼 40. リンゴ試験場	41. 浄仙寺 42. 活菜館 43. 温湯温泉 44. 落合温泉 45. 板留温泉	
【特産物】	46. リンゴ 47. ジュース等加工品 48. カシス加工品 49. 手作り木工品	50. 津軽せんべい 51. 和洋菓子 52. 地酒 53. こけし	54. 高冷地野菜 55. お米 56. 黒石のやきそば 57. 黒石のつゆやきそば
その他で代表又は自慢できるもの			
（ ）			

問6 将来、期待するまちのイメージについて①黒石市全体と②お住まいの地区それぞれに、次の中から最も望ましい将来像を2つまで選び、下枠に○をご記入下さい。

期待するまちのイメージ	①黒石市全体 (2つまで選択)	②お住まいの地区 (2つまで選択)
1. 道路や公共施設、商店などの生活環境が整ったまち		
2. 豊かな自然との調和がなされたまち		
3. 歴史・文化を大切にするまち		
4. 安心して暮らせる福祉が充実したまち		
5. 生涯学習、文化・教育の盛んなまち		
6. 産業（農林水産業、工業、商業）が盛んなまち		
7. 歴史や自然を活かした観光レジャーが盛んなまち		
8. 治安がよく、災害のないまち		
9. 住民によるまちづくり活動が盛んなまち		
10. その他 (具体的に)		



VI. 市の施策についておうかがいします。

問7 あなたは、黒石市の農林水産業を振興するために、何が重要だと思いますか。あてはまるもの全てを選んでください。

1. 新たな後継者の育成や、農家の規模拡大に力を入れる 2. 地域で生産されたもの（農産物等）を地域で消費する 3. 観光と結びつけた農業を積極的に進める 4. 黒石市の特産物をアピールし積極的に売り出す 5. 農産物の販売強化や加工品としての商品開発を図る 6. 山菜、木工品、木材加工品などの林産物を特産品にする 7. 土地改良など農業基盤の整備を図る 8. その他（具体的に) 9. わからない

問8 あなたは、黒石市の工業を振興するために、何が重要だと思いますか。
あてはまるもの全てを選んでください。

1. 新たな企業の育成により働く場を確保する
2. 大規模雇用の期待される企業誘致により働く場を確保する
3. 後継者や技術者の育成・支援を図る
4. インターネットなどの情報基盤を整備する
5. 優秀な人材を集めるために、市内企業をPRする
6. その他（具体的に _____)
7. わからない

問9 あなたは、黒石市の商業を振興するために、何が重要だと思いますか。
あてはまるもの全てを選んでください。

1. 身近な場所で日用品（食べ物、雑貨等）が買えるようにする
2. 既存の商店街に魅力ある店舗を集める
3. いろいろな商品が揃っている大型店（ショッピングモール）をつくる
4. 買い物が楽しめるよう、歩きやすく安全な歩道を整備する
5. 車での買い物が便利になるよう、駐車場を整備する
6. 朝市や定期市などのイベントを積極的に開催し、地元の産物をアピールする
7. 観光施設と商店との間で商品や情報のやりとりをして観光客を呼び
8. その他（具体的に _____)
9. わからない

VII. まちづくりへの取り組みについてうかがいます。

問10 あなたは、住民参加による「まちづくり」に参加したいと思いますか。
1つ選んでください。

1. ぜひ参加したい
2. 機会があれば参加したい
3. 参加したいとは思わない

問11 あなたは、どのような形でまちづくりの行政運営に参加したい、または参加できると
思いますか。あてはまるもの全てを選んでください。

1. アンケート調査などを通じた意見提供
2. 市で主催するまちづくりの計画や事業の説明会による意見提供
3. 市で主催するまちづくりへの勉強会への出席、計画づくりへの参画
4. 道路や公園などの公共施設への美化活動
5. 自宅への生け垣プランター設置による緑あふれるまちづくりへの貢献
6. その他
（具体的に： _____)

問12 あなたの住んでいる地区にまちづくりのルールが必要だと思いますか。
1つ選んでください。

1. 必要である 2. 必要ではない 3. どちらでもよい

問13 問12で「1. 必要である」と答えた方にお聞きします。
どのようなルールが必要だと思いますか。あてはまるもの全てを選んでください。

1. 高い建物を規制する
2. 建物や公共物の色を落ち着いた色彩とする
3. ブロック塀にしないで生け垣にする
4. 玄関先の花づくりや庭の緑づくり進め、緑いっぱいの地区とする
5. 敷地ぎりぎりに建物を建てず、ゆとりある街並みとする
6. 地域の歴史を感じさせる建物の形態やデザインを推奨する
7. 歴史ある自然や文化財を指定して守っていく
8. 公園や道路・公共施設を計画する時は、住民参加で行う
9. その他
(具体的に： _____)

その他、市への期待など、何でも結構ですのご自由にお書きください。

以上で質問は終わらせていただきます。このアンケートの結果は、住民のみなさまの貴重なご意見として、今後の計画策定に反映させていきたいと思いをします。

お忙しいところご協力いただきましてありがとうございました。

2. アンケート調査自由記述欄

アンケート調査票の最後の自由記述欄の一部を以下に掲載する。

○黒石市に嫁に来て20年足らずです。岩木山を望む広々とした田園風景はもとより、小さいながらも活気のある中心街はとても魅力的でした。「黒石をどんな風景のまちにしたいか」を今考える時なのかなと思います。そのためには、市内住民の各世代（60代～10代）の幅広い、意見交換が必要ではないでしょうか。そして、悪しき習慣（子どもに見せられない・聞かせられない）は小さい地域から、大きい組織まで取り去っていく転換期でもあると思います。子どもに恥ずかしくない行動を示すべきかと思います。

○黒石の活性化を計るため、年代別にユニークな企画を募集することがあればいいと思います。例えば、子どもたちには、「どんな黒石になってほしいか」絵画や作文の募集、大人には、なかなかと思えるアイデアには賞を与える、などの盛上げる企画があればどうでしょうか？

○①黒石市を活気あふれる街にするには、観光やアイデアを考えなければならないと思う。例として（1）カタクリの花を見た後、黒石やきそばを食べるツアー（2）雪だるま（かまくら）を作ろうツアー（雪のないところの人達には人気かも）②青森市のコンパクトシティの様に、歩いてゆける範囲内に銭湯・小売店・衣料品店・公共施設・郵便局・学校・医療機関などあれば良い。将来は誰もが年老いてゆく。マイカーは使えなくなる。老人、子供の住みやすい街作りを期待する。

○黒石の街は大好きです。空気が澄んで周囲の風景が四季折々ハッキリしています。秋になるとりんご、稲等歩いているだけで農産物の実りの”ゆたかさ”が目に入ります。その良さを次の世代にゆずっていけるよう努力して行きたいと思います。

○昔ながらの田舎の風景と、豊かな農産物がとれる土地。地産、地消を推進している鶴田町と、どうしても比較してしまいます。農業をしている世帯でも、次にやる人がいない、嫁がないという問題もあると思います。黒石は自然に恵まれた土地です。水もきれいで「黒石米は美味しいよね」と他の市町村の方に言われます。そして温泉もある。ぜひ、若い世代の方には、黒石市の気候を生かし、市全体でリンクした、よりよいまちづくりをしてほしい。スタンプラリー（産直、温泉地、こみせ、商店街 etc）で粗品をプレゼントするとか、「つながり」をもった観光をしてはどうかと思います。

○企業誘致により若年層の就職先を確保、かつ、近隣市町村から人口の流入を期待して市の財政基盤の強化を計る。ネットからの情報発信&収集。人とお金は入ってくるが出て行かないような活気にあふれた街へなる様期待。古いものは古いままの姿を維持するが、切り捨てる（ムダをはぶく）事が出来る物は思い切ってする。街なみが「古い」ならいいが「古びた」感じに目に映るので区画整理をふくめ、「きれい」に映る街づくりを期待。

- 中心商店街の活性化の強化。市内間で用事（買物）が済ませ、市外へ流れて行かないような、まず駐車場完備。相次ぐ商店の閉鎖で、買物がなかなか商店（市内の商店）だけでは、若い世代は満足いかないと思う。それによって市外へ行ってしまおうと思うので、無理とは思いますが、また以前のニチイや大黒のような大型の店舗のような、無料駐車場付デパートでもあったらと思う。魅力のあるまちに！スーパーはたくさんあっても、洋服は市内では買う気があまりありません。今車社会と言われているので、私の世代はまだ車の運転も出来ませんが、もう20年位したらやはり近くて買物しやすい所、病院も歩いて行けるような、そんなまちだと一番暮らしやすい所なのではないでしょうか。
- こけし、りんご、よされ、つゆやきそば・・・など、黒石市は良い物をたくさん持っている地域だと思います。せつかく材料があるのだから、もっとアピールを上手くしていけば、観光客のよびこみ、売上げの向上につながると思います。また、よされ、ねぷた等のまつりのやり方も、今までと同じようにしても何も変わらないので、盛り上がる工夫をする必要があると思います。
- 30年ぶりに東北6県を回った後、黒石にきました。市の中心街の変わりようにびっくりしました。まち全体が活気の無いよう感じられました。よく言われることですが、地域を活性化するには1.若者2.よそ者3.バカ者が必要と言われます。私もよそ者の1人として何らかの運動にかかわっていきたいと思います。
- 市の特産物やイベントなどのPRを図り、もっと多くの方が黒石市を訪れるようにしたいのではないかと思います。昔からの商店街を活性化してほしい。又、活性化するなら駐車場スペースも確保が必要だと思う。20～30代を対象に意見を取り入れ、イベント等開催すれば盛り上がるのではないかと。定期的に住民にこのようなアンケート調査を行う事が大切だと思う。又、調査した結果や生かしたい部分などを市民に知らせてほしい。
- 子供達が安心して遊べる緑地公園とでもいいでしょうか各地区ごとにあればよいかなと思います。ちょっとした遊具があり、自転車利用でき、ベンチがあり、赤ちゃん連れでも集まれる木陰のある集合公園があればと思います。澤成園も一般公開できれば、観光客の一つの目玉になるのではないのでしょうか。
- 祭りの輪が広がり、観光客がいっぱい来るような市。
- 黒石市は、今、私の目には、わずかですが、頑張っている様に見えます。（つゆ焼きそばetc・・・）ただ、やはり、もうけようと思うと間違いで、やはり、住民の為を一番に行動してほしいです。未来をになう、子供達の為に、そして今まで頑張ってきたお年寄りの為に、私達が一丸となって、協力し合う時だと思います。このアンケートが配られたということは、色々な期待をしています。

3. 他都市のまちづくり事例

黒石市の今後のまちづくりの参考になると考えられる事例として、以下の事例を収集した。

滋賀県 近江八幡市	歴史的資源を活かしたまちづくりの成功事例として取り上げた
大分県 由布市 (旧由布院町)	温泉を活かしたまちづくりの成功事例として取り上げた
北海道 小樽市	豪雪地帯における、雪を活かしたまちづくりの成功事例として取り上げた
秋田県 北秋田市 (旧鷹巣町)	「歩いて暮らせるまちづくり」をコンセプトにまちづくりに取り組んだ事例として取り上げた

なお、参考・引用文献は以下のとおりである

- ・「まち再生事例データベース」国土交通省都市・地域整備局
http://www.mlit.go.jp/crd/city/mint/htm_doc/index.html
- ・全国伝統的建造物群保存地区協議会ホームページ
<http://www.denken.gr.jp/index.html>
- ・「地域いきいき観光まちづくり－100－」
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/kankol100/index.html>

(1) 歴史的資源を活用したまちづくりの事例

滋賀県 近江八幡市

○背景

近江八幡市は滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東岸に位置する人口約6万9千人の街である。

豊臣秀吉の養子の秀次が八幡山城の築城を開始し、商工業者を安土から移させて町を開いたと言われている。また、八幡堀を開いて琵琶湖へつなぎ、琵琶湖を往来する荷船を寄港させた。そのため商業が大いに発展し、交通の要衝として江戸時代を通じて大いに発展した。江戸時代の町並みや豪商の邸宅は今日でも往時の姿をよくとどめている。明治に入ってから町は栄え、戦後も東近江の中核都市として発展を続けてきたが、かつては近江八幡の経済の基礎であった八幡堀は交通環境の変化によりその機能を失い、ヘドロが堆積する状態になっていた。



保全された八幡堀

○取り組み

①八幡堀の再生

八幡堀は、昭和40年代には生活排水が流れ込みヘドロが2mも堆積していた。行政は地元要望もあり、1972年に八幡堀の埋め立て案を公表した。しかし、近江八幡青年会議所や自治会が署名運動を行ったり、ヘドロの除去作業を始めたりした。この活動



近江八幡市の歴史的な町並み

は徐々に広がり、県は既に開始されていた工事を異例にも中止し、全面的に浚渫する方針に転換し、1979年に完了した。こうして近江八幡市民の貴重な資産である八幡堀が守られた。

②まちづくり活動の広がり

八幡堀の保全を契機に、「よみがえる近江八幡の会」「明日の近江八幡を考える研究会」「八幡堀を守る会」などが結成され、定期的な美化奉仕作業、水質浄化策の実験の実施、イベント開催、広報誌の発行等が行われ、市民を中心とするまちづくり活動が広がった。また、1991年「重要伝統的建造物群保存地区」選定、2005年「手づくり郷土大賞」などを受けている。町家の活用策なども注目される。「野間邸」は空き家になっていたが、アート関係者、福祉現場スタッフ等により改修され2004年にアートギャラリーとしてオープンした。このように市民の「小さな」活動が相互に響き合いながら町の歴史、文化、環境が守られ、市がそれを支援、補完しているところに近江八幡市の特徴がある。

(2) 温泉地のまちづくりの事例

大分県 由布市 (旧由布院町)

○背景

湯布院町は温泉のまちである。まちの中心部の由布院温泉、北東端の塚原温泉、南端の湯平温泉の3つの温泉を持つ。3つの温泉とも独特の風情を漂わせ、これまで数多くの文人墨客に愛され、今も全国から400万人近くの観光客が訪れるが、その陰には関係者の忍耐強く息の長い取り組みがあった。湯布院町では、いわゆるリゾート開発と一線を画し、民間の若手旅館経営者が中心となって、地域の経営資源である自然景観と温泉を活かした家族・女性グループ客向けの温泉保養地づくりを40年近くにわたって進めてきた。また、斬新なアイデアに基づく映画祭や音楽祭などのイベントを全国に先駆けて開催し、都市・農村交流による活性化を図ってきた。



○取り組みの体制

市民の代表と行政の強いリーダーシップにより、「もっとも住みよい町こそ優れた観光地である」という基本的な考えに基づき、自然と産業（観光）との調和した「成長の管理」を理念とする基本構想、基本計画や「潤いのあるまちづくり条例」に従って、民間の活力を活用しつつ、市民と行政との協働システムによるまちづくりを推進している。



①ダム計画反対運動の展開

由布院盆地は地形的にダムに適していたようで、湯布院温泉をダムにするという計画が1952年に突然持ち上がったという。それに対して賛否両論の激しい議論が起こり、町の青年団が強力な反対活動を行った結果、ダム計画は1953年に打ち切られたが、これが住民がまちづくりを主体的に考える大きな契機になった。

②まちづくり運動の展開

ゴルフ場建設計画への反対運動から発展した「明日の由布院を考える会」は、住民が広い視野でまちづくりを考える場として発展し、「ゆふいん音楽祭」「湯布院映画祭」などの開催につながった。さらに、「保養温泉地構想のための100日シンポジウム」などを通じて、住民と行政とが協働してまちづくりに取り組むシステムが生まれたという。

一方町も西ドイツの温泉保養地を参考にした「湯布院町クアオルト構想」、「潤いのあるまちづくり条例」などにより、外部資本による乱開発から町を守りつつ、住民の意見を十分に取り入れたまちづくりを展開している。

(3) 豪雪地帯でのまちづくりの事例

北海道 小樽市

○背景

小樽のまちは明治、大正期の雰囲気が残っていたため、レトロブームなどの流れの中で脚光を浴び、1992年には年間500万人を越える観光入込客数を記録した。しかし、そうした中、ブームは一過性で終わるのではないかという危機感も生まれ、小樽観光のさらなる振興を図ることが必要であると考えられ、「運河・景観」「ガラス・オルゴール」「寿司などの食事」の3点セット以外の新たな魅力づくりや修学旅行生の積極的な誘致促進の取り組みが開始された。小樽観光の新たな魅力を創出するため結成された官民共同の「小樽観光誘致促進協議会」が中心的組織となり、さまざまな施策を展開している。

○具体的取り組み

①「小樽雪あかりの路」

誘致協では、小樽における宿泊滞在型観光を促進するためには夜と冬における観光が重要であると考え、1999年から「小樽雪あかりの路」というイベントを毎年2月に実施している。これは、冬の夜の小樽を無数のキャンドルで埋め尽くそうというもので、会場は、小樽運河周辺や手宮線跡地などのメイン会場と、小学校、病院、神社の参道、各家庭の庭先などで市民が自主的にキャンドルを灯すミニ会場とである。

「雪あかりの路」の来訪者数は2006年で50万5,000人と過去最高となり、財団法人地域活性化センター主催の「第10回ふるさとイベント大賞」を受賞した。

「雪あかりの路」のイベントでは、寒い冬空の下での散策途中、温かいメニューで冷えたからだを温めていただくという主旨で、小樽市内の飲食店がそれぞれ腕によりをかけたメニューで訪れた観光客を歓迎する「湯気のおもてなし」も同時に開催した。

従来、小樽観光は夏期を中心としていたが、宿泊滞在型観光の強化を図る中で冬季の観光客誘致にも力を入れてきた結果、「雪あかりの路」は今では北海道でも著名な冬のイベントの一つに位置づけられるほどになっている。

②特徴的手法

「通年型観光」「官民一体の観光振興」という新たな概念創出がなされている。事業の企画に当たっては、運河や雪という従来は特段の観光価値が与えられていなかった地域資源に光を当てて新しい価値を生み出した点に大きな特徴がある。また、双方向の情報発信によりその魅力を口コミ的に広げている点もユニークである。官民の関係に関しては、活動の企画・実施は民間が担い、活動の経済的支援、事務局機能は行政が担うという役割分担により、それぞれの長所を活かした効果的な事業展開がなされている。



(4) 歩いて暮らせるまちづくりの事例

秋田県 北秋田市 (旧鷹巣町)

○背景

旧鷹巣町は、秋田北部で一定の求心性を持つ地域でありながら、秋田県全体の24.3%を大きく上回る27.3%という高齢化率(2005年)となっている。

このような状況に対処するため、旧鷹巣町では1992年に本格的な高齢者福祉政策に乗り出し、住民主体のワークショップ方式で様々な斬新な対策を打ち出してきた。そして、旧鷹巣町は「福祉のまち」として全国的に有名になった。ワークショップ方式は今ではまちづくり全体に広がっている。

○歩いて暮らせるまちづくり

旧鷹巣町は、2000年に国土交通省「歩いて暮らせる街づくり」の20か所のモデル地区の一つとして認定され、鷹巣駅前銀座通り商店街活性化のため組織された「商業地開発ワーキング」の活動施策として空き店舗を活用した福祉施設の設置、タウンモビリティ実験などが実施された。



○福祉のまちづくり

中心市街地の空き店舗を活用し、介護予防拠点施設「げんきワールド」を平成13年1月に開設。「げんきワールド」は、福祉相談窓口や交流プラザなどからなる複合施設。この種の施設としては珍しく、お年寄りのおしゃべり、ボランティア活動の拠点、高校生の電車の時間までの勉強スペースなどとして、実際に多くの町民が集まり、利用されている点が特筆され、商店街の賑わいの拠点となっている。

また、寝たきり老人の一扫、空家の戸建住宅を改造したまちなかのグループホーム、小学校区ごとのデイサービスなどの福祉サービス+コミュニティ拠点(サテライト)など。

郊外には全町の福祉拠点施設「ケアタウンたかのす」(老人保健、短・中期入所、デイサービス施設等、平成11年開設)と、車椅子や補助器具の展示貸出や住宅改造相談などを行っている補助器具センターがあり、この規模の町としては非常に充実した内容となっていた。

○タウンモビリティ実験

鷹巣町は高齢者や身障者が健康で生きがいのある生活を送るためには、健常者と同じように町に出かけ、市街地の商店で買い物をすることが望まれるとし、タウンモビリティ導入を図っており、マイカーに頼らない移動手段の実験を熱心に行っていた。

路線バスのない地域での代替ジャンボタクシーの運行、商店街駐車場を基地とした電動スクーター貸出し、ノンステップバスによる市街地循環運行、携帯電話による呼出しバス運行などなど。特に電動スクーターは誰でも簡単に乗れる乗り物である。

○課題

鷹巣町は北秋田市に移行し、首長も交代した。この新しい体制の下で、今後どのように過去の成果を継承あるいは改善し、まちづくりを発展させていくか、その動向に注目が集まっている。今後のまちづくりにあたっては、タウンモビリティに典型的に見られるように、経営体制の確立を図っていくことが重要になっている。

4. 都市計画マスタープラン策定の経緯

開催日	会議名称	主な検討内容
平成 21 年 1 月 16 日	第一回庁内検討会	現況、アンケート調査結果報告／主要課題／目標・方針／全体構想
平成 21 年 3 月 23 日	第二回庁内検討会	全体構想／策定スケジュール及び体制／地区区分について
平成 21 年 6 月 22 日	第一回策定委員会	策定スケジュール及び体制／現況、アンケート調査結果報告／主要課題／目標・方針／全体構想
平成 21 年 7 月 11 日	第一回ワークショップ	北原先生講演「まちづくりとは」／地域の『良いところ』と『悪いところ』を探そう
平成 21 年 9 月 26 日	第二回ワークショップ 浅瀬石・追子野木地区、 山形地区	地域を歩いて知ろう（まち歩き）浅瀬石・追子野木地区、山形地区
平成 21 年 9 月 27 日	第二回ワークショップ 牡丹平・北・上十川地区、 東・中・西部地区	地域を歩いて知ろう（まち歩き）牡丹平・北・上十川地区、東・中・西部地区
平成 21 年 10 月 30 日	第三回ワークショップ	地域の夢を語ろう
平成 21 年 11 月 25 日	第三回庁内検討会	全体構想までの修正確認／地区別構想／まちづくりの実現化方策
平成 21 年 12 月 2 日	第四回ワークショップ	みんなで作ったまちづくりを再確認しよう
平成 21 年 12 月 2 日	第二回策定委員会	地区別構想／まちづくりの実現化方策
平成 22 年 2 月 17 日	第四回庁内検討会	地区別構想の修正確認／まちづくりの実現化方策の修正確認
平成 22 年 3 月 23 日	第三回策定委員会	都市計画マスタープラン素案

黒石市都市計画マスタープラン

発行 平成22年4月
黒石市
〒036-0396 青森県黒石市市ノ町11-1
Tel 0172-52-2111

調査協力 株式会社協和コンサルタンツ